平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 7 - 1

該当

24年度(計画)

2,672 千円

2,737 千円

5,409 千円

千円

千円

1 事務事業の表示

実施年度

国·道支出金

地 方 債

その他財源

雄武町負担額

(一般財源)

費

放課後子どもプラン推進事業 事務事業名 担当課名 児童センター 担当係名 児童センター係 評 価 者 職名 館長 職名 係長 管理職 作成者 氏名 氏名 斉藤智美 佐々木幸博 保護者が就労等により、昼間留守家庭となる主に小学校低 全体計画 学年を対象に、放課後の家庭にかわる生活の場・遊びの場を (平成 20 年度~ 24 年度) 提供し、児童の健全育成を図る。 国·道支出金 12,218 千円 事業の概要 事 地方債 千円 その他 千円 費 一般財源 10,449 千円 事業費計 22.667 千円 直営 民間委託 その他 実 施 方 法 第5期総合 Α 計 画(前期) 非登載事業 優先度 登載事業 政 策 標 ぬくもり・雄武~保健・医療・福祉の充実~ 目 本 施 策 8 子育ち・子育ての充実 策 「子育ち」支援の強化 事業の位置付け 位 施 事務事業の種類 自治事務 法定受託事務 次世代育成支援行動計画 その他計画・根拠等

22年度(実績)

4,197 千円

千円

15 千円

977 千円

5,189 千円

23年度(見込)

2,713 千円

1,342 千円

4,070 千円

千円

15 千円

21年度(実績)

2,147 千円

千円

10 千円

925 千円

3,082 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan·Do)

計

20年度(実績)

2,146 千円

1,037 千円

3,198 千円

千円

15 千円

<u> </u>	DJ·内台(Plall·DO)					
【誰、何が(対象)】			ましい指標(目的達成 上の成果指標)	状	兄を最っ	も端的に表す理
【抱える課題や	留守家庭児童の安全な居場所づくり。		開設日数、利用者数			
ニーズは】		指	福(指標計算式/解説)		目標(直及び実績値
			児童クラブ年間開設 日数	目	標年度	22年度
【どのような状態 になることを目指	│ 児童の学校終了後の安全確保と異年 │ 齢との関わりを通して自主性・社会性を		LI XX	目	標値	306 ⊟
したのか(意図)				実	績 値	307 ⊟
				達	成度	100.3 %
【その結果、どの			児童クラブ年間利用 者数	目	標年度	22年度
ような成果を実現	留守家庭児童の健全育成を図り、保護		日奴	目	標値	10,000 人
したいか】 成果 = 目的	者の子育てと就労の両立を支援する。			実	績 値	11,035 人
/戏来 - 白巾				達	成 度	110.35 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
開設日·時間	開設日 月曜日~金曜日、休校日(1 時 間 平日 授業終了後~17:3	土曜 0 1	曜日·祝日·学校が特別 休校日 8:00~17:	別に 30	休みと お弁	した日) 当対応
児童クラブの分 割	登録者増加に伴い2クラブにし、放課後児童指導員を増員した。					
放課後児童クラ ブ周辺校児童出 迎え事業	これまで保護者の送迎で受け入れてきたへき地小学校児童の出迎えを行い、保護者の負担軽減や児童の放課後の安全確保を図った。					

2	事務事業の評価	(番 /	C h	۰.	L١	١
3	事務事業の評	1Ш (C n	eс	K.	۱

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ	: 社会情勢に照らして妥当か	、町が担う必要があるか。	当該事務事業
	場合の支障、既存事務事業と(* 1.5. 1. * 1. * 1. * 1. * 1. * 1. * 1.	

	で美心しない場合の文	障、既存事務事業との機能重複な	9兄且しによる別心り能性)		
必要/概ね必要/	義務的なもの	登録児童数は年々増加しておりの 業を実施しない場合児童の安全性 て就労できない。	R護者のニーズが増している。事 生が確保されず、保護者が安心し		
<mark>課題あり </mark>					
(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)					
有効 ^{有効 / 概ね有効 /}	設定した目標値の達成 状況 連 達成 ほぼ達成	- 保護者が安心して就労に専念で <mark>た</mark> 。	き、子どもの安全対策が図られ		
課題あり	下回る				
(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)					
概ね効率的 効率的/概ね効率 的/課題あり	判断の理由 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減 その他	児童センターで実施することによりる。出迎え事業については学校のごした児童が多かったため、利用)協力もあり、放課後を学校で過		
(4)事務事業の公平					
(*)ずカガザ未のご干		1			
公平 公平/概ね公平/ 公平でない	判断の理由 受益者負担がある 受益者負担がない 受益が一部に偏る その他	年間を通して町内全ての児童が和	利用できる。		
B:ほぼ計画通 C:当初の計画 D:事業効果が	りに進んでいるが目標に を達成できていない。事	達成された。今後も計画通り事業 達成していない。事業の進め方に 業規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等 評価会議評価(二次評価)	こ改善が必要 等		
H CHI	IM (SCHIIM)				
	٨	Λ			
により、より一層児童が ることができた。 出迎え	A 、児童指導員を増員したこと 安心して過ごせる場を提供す 事業については利用数は少な 童が利用しやすい環境を整え	A 同 左			
により、より一層児童が ることができた。 出迎え	安心して過ごせる場を提供す 事業については利用数は少な 童が利用しやすい環境を整え				
により、より一層児童が ることができた。出迎えいかったが町内全ての児 た。 今後の展開方 (Action)	安心して過ごせる場を提供す事業については利用数は少な童が利用しやすい環境を整え				
により、より一層児童が ることができた。出迎えいかったが町内全ての児 た。 今後の展開方 (Action) 継続 少子化傾向にあるも 加傾向にあり、今後 める。へき地小学校	安心して過ごせる場を提供す 事業については利用数は少な 童が利用しやすい環境を整え	同左			
により、より一層児童がることができた。出迎えかったが町内全ての児 た。 今後の展開方 (Action) メ継続 少子化傾向にあるも 加傾向にあるも かる。へき地小学を の利用希望調査を いため中止とする。	安心して過ごせる場を提供す事業については利用数は少な童が利用しやすい環境を整え 「「「「「「」」」 「「」」」 「」」 「」」 「」」 「」」	継続/縮小	終了休止廃止		
により、より一層児童がることができた。出迎えいかったが町内全ての児にた。 今後の展開方 (Action) ※終続 少子化傾向にあるもかがである。へき地小学校の利用希望調査をある。 継続/現状終	安心して過ごせる場を提供す事業については利用数は少な童が利用しやすい環境を整え を / 縮 // このの、登録児童数は増 も2クラブにして事業を進 の出迎え事業はH23以降 うこなったが希望者がいな	同 左 継続 / 縮小 同 左	終了休止廃止		